

具材料の検討を行う。布団は掛と敷とで多少検討の要素が異なると思われるので先ず敷布団を主として研究をすすめる。

2) 乳児は尿や汗で敷布団を汚すので清潔度保温の点から合成繊維の利用を検討して行く。

2 1) 成人女子3名に同一着衣条件で、外被を覆った木綿わた、エバーソフト、テビロン加工新製品に仰臥させ、背中の一定部位の下で外被と充填物の間の温度湿度を測定、尚外被の影響についても比較を試みた。実験には芝亀吉氏によるミニマム湿度計を用いた。

2) 生後1~2ヵ月の乳児3名に着衣外被敷布を同一条件とし同重量の3繊維の布団綿を入れ敷布の下の温度を測温した。飯尾電機KK製高感度電気温度計を用いた。

3 夏季の敷布団の温度は要因分析の結果3種類間に有意の差が認められず、湿度に関しては綿が低湿で他の2種は大差ない。外被は温度湿度共に有意の差がある。被検者の快感は木綿わたがすぐれている事に一致している。乳児の敷布団上の温度はナイロン綿が稍々温度高く、テビロン、木綿わたは大差ない。

15 敷布団についての研究

- 1) 夏季における敷布団の充填材及び外被の影響
- 2) 夏の乳児の敷布団の状態について

福岡女子大 平松 園江
花田瑠美子

1 1) 綿の寝具気候については中島、多田、竹中、畠山氏等の諸報告があるがこれ等を基として綿以外の寝